

耐えて掴んだ初優勝

「沖縄のジュニア選手への刺激になれば」

《第15回九州ミッドアマチュア選手権》

～グランドチャンピオンGC

通算イーブンパー 144

仲村 春之介（美らオーチャード、30歳）



【写真は初優勝の仲村（中央）と上位の選手たち】

我慢比べに勝った。グリーンは硬い上に速い。おまけにピンが難しい位置に切られていた。それはスコアに反映された。初日はイーブンパー以下が5人もいたのに、最終日

はベストスコアが73。ほとんどの選手がいかに苦しんだかが分かる。九州タイトルを初めて獲得した仲村もその1人だった。

「優勝して良かった。今日は耐えました。勝ちました、というより勝たせてもらいました。(グリーンに乗っても) 変なところについていたし。昨日の貯金が効いた」。初日は3アンダー69をマークして首位に立った。1イーグルにバーディーも5個。出入りの激しいゴルフながら、スコアを縮めることができた。ところが、最終日のバーディーは2オンした6番ロングでの1個だけ。3~4mにつけても難しいバーディーパットが残り、スコアは伸びない。ボギーは4個。それでも逃げ切った。

ハーフをターンした時点で2位に3打差をつけた。高校時代からのライバルである同じ最終組で連覇を目指した石塚祥成(福岡雷山)はバックナインを34で回り、最終的には仲村に1打差まで詰め寄ったが、8番ミドルでのトリプルボギーが響いた。仲村はバーディーこそ少なかったものの、その代わり大きなミスもなかった。

元々はドローヒッター。4年前に生まれ故郷の沖縄に帰ってからフェードに変えた。「特別な理由はないんです。なんとなく。今はドローを打つこともできないほど。安定感がある。ミスしてもひどくない。(ドライバーの) 飛距離も280ヤードくらいで、ほとんど変わらない」と言うほどで、フェードが身についている。

ゴルフは10歳から始めた。コザ中→柳川高(福岡)→専修大を卒業後にゴルフ関係の会社などに務め、家業を継ぐために2021年11月に帰郷した。父親が中頭郡北中城村で「レーントゥセントラル」というボウリング場を経営し、仲村は取締役の肩書で仕事に携わる。「親は私をボウリングのプロにしたかったようです。ベストスコア? 覚えてないんですが、父が言うには『267』だそうです」。小さい頃から運動能力が優れていたのだろう。



柳川高時代には学校は異なっても強いジュニア選手がたくさんいた。同級生にはLIVゴルフで活躍する香妻陣一朗(日章学園)、今年の九州オープンを制した三重野里斗(冲学園)ら。そんな中で仲村は揉まれた。今、仲村がちょっと寂しく感じているのが地元・沖縄でのジュニア世代。「もう少し盛り上がって欲しい。ジュニアに活気がないというか。今回の優勝が刺激になってくれないか、と思います」と先輩ゴルファーとして目を向ける。

同じジュニア世代と言え、2学年下で沖縄出身の玉寄妃那子と年内に挙式する予定。玉寄は日本経済大時代に麻生杯九州女子学生選手権で優勝したキャリアを持つ。九州制覇と結婚。仲村にとって忘れられない年になる。挙式前のジャパンの大会。「去年を超えるような成績を残したい」。昨年、初めて出場した日本ミッドアマでは11位。今回はシード権獲得が最低の目標ラインとなる。

《グランドチャンピオンGC》

